



Oeuvre - 佇まい

Raffiné

人は、
自分の内側を語る前に、
すでに佇まいとして
世界に立っている。

それは、
意識よりも早い。

言葉よりも、
選択よりも、
先に現れる。

人は、
自分を説明しているつもりで、

すでに
すべてを示してしまっている。

何を考えているかよりも、

どこに
視線を置いて
生きているか。

視線は、
教えられて
置かれるものではない。

生き方の中で、
いつの間にか
定まってしまう。

だから、
何んまいは
つくられない。

ただ、
露出する。

人は、
内側を
整えようとして、

しばしば、
視線を
失う。

見る場所が、
定まっていないだけだ。

内側とは、
掘り下げる
場所ではない。

立ち戻る
位置である。

人の在り方は、
内側の構造によって、

すでに
佇まいとして
成立してしまっている。

読み取る人が
いても、
いなくても、

佇まいは
変わらない。

美しさ、
洗練、
静けさ。

それらは、
あとから
与えられた
呼び名にすぎない。

目指されたものではなく、

視線が
定まったあとに、
勝手に
立ち上がってしまう。

方法は、
置かれていない。

正解も、
用意されていない。

ただ、
どこに立って
世界を見ているか。

その位置だけが、

静かに、
残る。

光は、
内側が整ったときにだけ、
外へ滲み出る。



R.

Œuvre – 佇まい
発行：Raffiné
2026

美学思想家
古川玲奈